

(第6期) 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画 各関連事業の進捗状況について

重点施策1：地球環境問題に対応する生産性の高い環境こだわり農業の推進

(1) 生産性の向上と持続性の両立

①生産性の向上

◆みらいにつなぐ近江米新品種プロジェクト

R5 年度から県域での栽培を開始した「きらみずき」について、栽培技術の確立や収量・品質の高位安定化を図るため、以下の取組を実施した。



環境こだわり米「きらみずき」



オーガニック米「きらみずき」

○収量・品質の確保に向けた栽培実証

- ・県内6地域に実証ほを設置し、生育状況や病害虫の発生状況および収量・品質等の調査を実施

○栽培技術等の確立

- ・農業技術振興センターにおいて、収量・品質確保に向けた栽培試験、病害抵抗性遺伝子系統の育種等を実施

○新品種プレデビュー生産拡大事業

- ・品種特性を活かした栽培技術に取り組み、高品質・安定生産を図るため、「きらみずき」栽培者を対象とした栽培研修会を開催（R5年6月16日）
- ・収量・品質の高位安定化を図るため、栽培記録の回収や玄米や土壌のサンプルの分析を実施
- ・生産ほ場に設置する看板を作成・配布することで、周囲の農業者や消費者等に周知
- ・R6年産の作付拡大に向け、農業者への理解を促進し、栽培意欲の向上を図るため、推進説明会を開催（R5年8月：県内2地域、R5年10-11月：県内6地域7会場）

○新品種種子緊急確保事業

- ・R6年度の作付拡大に対応する優良種子を確保するため、「きらみずき」採種ほ場における種子栽培を支援



農業者等との生育状況の確認



関係団体等とのほ場巡回



作付拡大説明会の様子

◆しがのスマート農業技術実装支援強化事業

○環境モニタリングデータの活用

- ・生産者と普及組織がクラウド上にアップロードされたデータでリアルタイムに情報共有できるよう、対象となる生産者ハウスに通信機能のある環境モニタリングセンサーを設置
- ・モデルとなる生産者がデータに基づく技術改善を実践するため、外部専門家と普及指導員が連携し、伴走支援を実施

○リモートセンシングデータの活用

- ・農地の地力や作物の生育状況を分析できる衛星等を活用したリモートセンシングシステムの試験導入を支援（県内 100 モデル）
- ・収集されたデータを普及組織とリアルタイムで情報共有し、分析結果の活用方法等の検討や検討結果に基づく栽培改善技術の実証を実施

◆作業負担や環境負荷の軽減等を図るためスマート農業技術等を推進

湖東農業農村振興事務所において、「濁水を出さない農業技術の実演会」を開催した。実演会では、落水せず田植えが可能な自動直進アシスト田植機を紹介して普及拡大を図るとともに、濁水の現状と漁業への影響を周知し意識啓発を図った。

②持続性の向上

◆被膜殻にプラスチックを使用しない緩効性肥料の取組を推進

○農業系廃プラスチック対策推進事業

プラスチックを使用しない緩効性肥料について、水稻「みずかがみ」栽培における環境こだわり栽培への適用性を検討・確認するために、農業技術振興センターが実証ほを設置した。

◆環境こだわり農業支援事業

○環境保全型農業直接支払交付金

国の日本型直接支払制度に基づき、農業者団体等が環境こだわり農業を実施した上で、さらに地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い営農活動に取り組む場合に、取組面積に応じて、国・市町とともに一定の負担割合により支援を実施した。

区分	R5 見込み値	(R4 実績値)
実施件数	424 件	(425 件)
実施面積	12,406ha	(12,534 ha)
うち 長期中干し取組面積	10,633 ha	(10,728 ha)
うち 殺虫殺菌剤・化学肥料を使用しない栽培	134 ha	(101 ha)
交付額	533,447 千円	(583,748 千円)
	※うち 1/2 国費、1/4 県費、1/4 市町費	

《実施面積の推移》

R2 年度から第2期対策が開始されている。水稻の作付面積減少等に伴って、取組面積は減少している（図1）。

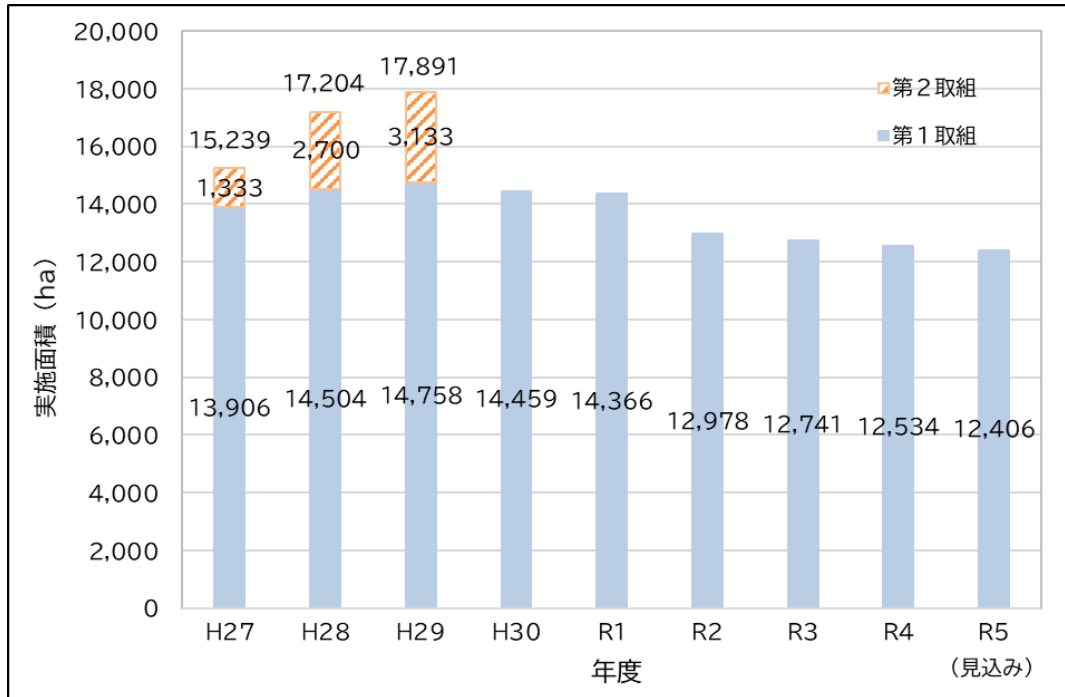


図1 滋賀県の環直交付金に係る実施面積の推移

《支援対象取組別の面積》

取組面積のうち、最も多いのは「IPMの実践、畦畔の人手除草および長期中干し（5,597ha）」。次いで、「緩効性肥料の利用および長期中干し（4,935 ha）」となっており、これらの取組で約85%を占める（図2）。

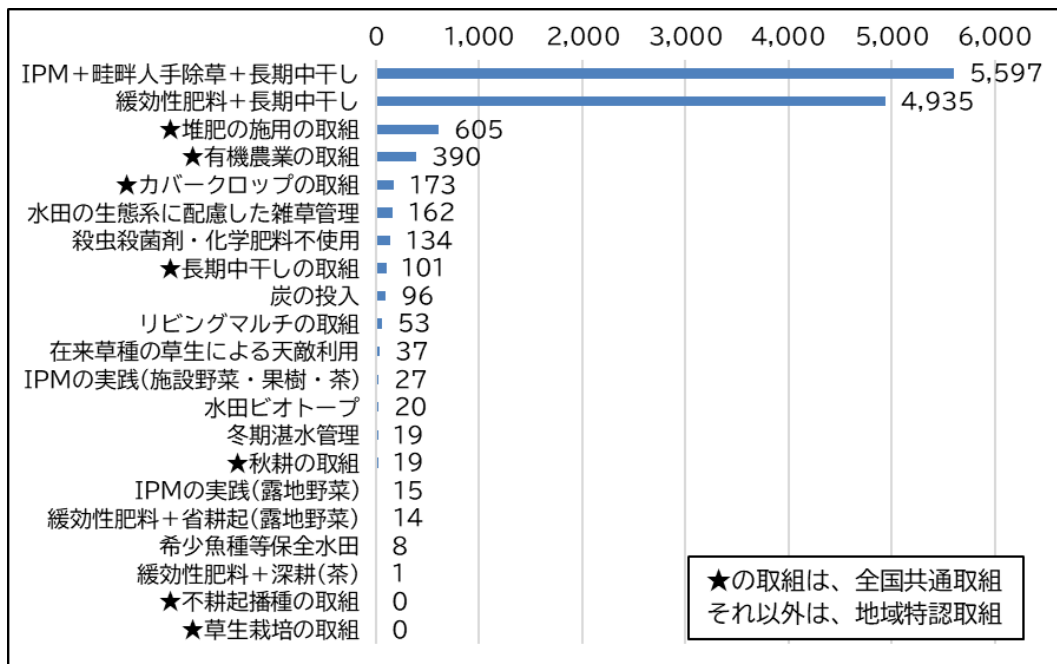


図2 令和5年度各取組の実施面積（見込み）（単位：ha）

重点施策2：環境こだわり農業の柱としてオーガニック農業を位置づけ本格的に拡大

(1) オーガニック農業の拡大

① オーガニック農業の推進

◆オーガニック近江米等産地育成事業

○有機農業転換推進補助金

新たに有機農業を開始する農業者を支援した。(4名 5.4 ha)



○有機JAS認証取得支援

「オーガニック」の表示に必要となる有機JAS認証の取得に係る費用の一部を助成した。

(4件)

○有機農業産地づくり交付金

有機農業の生産から消費まで一貫して推進するモデル的地区(オーガニックビレッジ)の創出に向け、市町等へ働きかけを行うとともに、意見交換を行い、新規取組を促進した。

(R6年度 2市町実施見込み)

② 水稻の推進

◆オーガニック近江米等産地育成事業

○乗用型水田除草機の導入支援

効率的な除草作業や低コスト安定生産技術体験を実現させ、個人または組織においてまとまった面積(4~5 ha)でオーガニック農業が実施されるように、乗用型水田除草機の導入に係る費用の一部を助成した。(2件)

◆みらいにつなぐ近江米新品種プロジェクト【重点施策1(1)①に記載の内容のため省略】

③ 茶の推進

◆健康志向に対応したオーガニック茶産地育成事業

リーフ茶の需要減少による国内市場の縮小と産地間競争の激化に対して「近江の茶」が勝ち残るため、カフェインレス等の健康機能性を持たせたオーガニック茶の開発と産地の取組を支援した。

○健康志向に対応したカフェインレス茶製造技術の開発

- ・栽培技術：品種や茶期(収穫時期)等によるカフェイン含量の少ない茶葉原料の検討
- ・製造技術：蒸熱方法や蒸熱後洗浄によるカフェイン除去技術の検討

○健康志向に対応したオーガニック茶産地の育成支援

《オーガニック茶産地体制の構築》

- ・カフェインレス茶の試験製造、消費者アンケート
- ・カフェインレスオーガニック茶の品質評価(味覚分析等)

《特色あるオーガニック茶産地の整備》

- ・カフェインレス茶の品質評価、消費者アンケート
- ・特色ある茶生産に向けた産地戦略の構築

(2) オーガニック農業を支える栽培技術の開発と普及

◆オーガニック近江米等産地育成事業

○有機農業を進める人材育成

- ・有機農業指導員を育成し、現地指導体制を強化するため、有機農業の技術や有機JAS制度に関する指導人材育成研修を実施

研修名	開催日	受講人数
有機JAS指導員研修	R5年7月24日～25日	12名
有機栽培技術研修	R5年8月3日	12名
	R6年3月7日～8日	41名

- ・乗用型水田除草機を使用した実演会の実施（2回 R6年6月16日）



乗用型水田除草機 実演会



有機JAS指導員 研修会

○水田輪作体系におけるオーガニック栽培の確立

- ・水稲-麦-大豆等のブロックローテーション体系においてオーガニック栽培(有機JAS相当)に取り組めるよう、畑作物の栽培技術を検討

◆オーガニック野菜担い手確保・育成事業

オーガニック野菜の新規就農希望者や新たなオーガニック栽培部門を開始したい者に対して、座学や体験研修等を通じて、事業計画の構築、栽培技術の習得等について支援した。(6名)



座学研修（全6回）



体験研修（県内外の先進農家/8か所）

重点施策3：環境こだわり農業の強みを生かした流通・販売の強化

(1) 流通・販売面で取組強化

◆みらいにつなぐ近江米新品種プロジェクト

○新品種PR・流通促進

近江米新品種「きらみずき」のデビューにあたり、以下の取組を実施した。

- ・量販店での試食・販売イベント
- ・テレビCM、テレビ番組、SNS広告
- ・商標登録等の知財戦略

等



イベントの様子

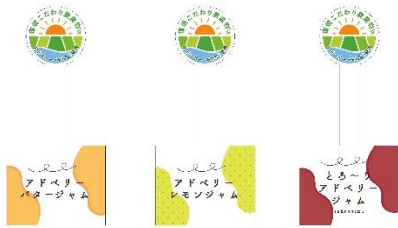
◆環境こだわり農産物等流通・販売強化事業

○環境こだわり農産物等認知度向上事業

「環境こだわり農産物」の認知度向上を図るため、以下の取組に係る経費を支援した。

《支援メニュー》

- ・直売所や量販店等における「環境こだわり農産物」の販売コーナーの設置
- ・「環境こだわり農産物」を使用している惣菜等への簡易表示の推進
- ・量販店等での販売促進・PR活動



販売商品に環境こだわり農産物が使用されている旨を記載したラベル



販売コーナーに設置する説明パネル

○オーガニック近江米高付加価値化推進事業

以下の取組に係る経費を支援した。

《支援メニュー》

- ・首都圏、京阪神等の消費ニーズのある地域での商談会等への出展等の販路開拓
- ・販売店舗およびメディア発信によるオーガニック近江米のPR（販促活動・販促用PR資料の作成、各種メディア等を活用した情報発信）
- ・高付加価値販売につながる商品開発（オーガニック米等の新商品開発、市場調査実施）



出展の様子



玄米せんべい

◆健康志向に対応したオーガニック茶産地育成事業【重点施策2（1）③に記載のため省略】

(2) 消費者の理解促進

◆環境こだわり農産物等流通・販売強化事業

○「環境こだわり農業」理解促進業務委託

「環境こだわり農業」の理解醸成を図るために、主に小学生と消費者を対象とした啓発資材を制作・作成。

《制作・作成物》

小学生向け	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境こだわり農業」に関する学習用動画（テーマ別で3本） ・小学校教師が活用する指導者用資料 <p>※上記は学習指導要領に基づいた関連単元に準じて制作・作成。</p>
消費者向け	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所や量販店等でデジタルサイネージ映像として活用できる動画（約30秒）



指導者用資料



「環境こだわり農業」PR動画

◆世界農業遺産「琵琶湖システム」の認定を機に、「環境こだわり農業」の取組を全国へ発信

「琵琶湖システム」の魅力と価値を伝えるテレビ番組や、子ども向けの学習教材、PR動画を作成し、県ホームページに公開、YouTubeで配信するなど、「環境こだわり農業」について全国に発信した。



テレビ番組



PR動画



学習教材



森・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム
 「琵琶湖システム」ロゴマーク

◆魚のゆりかご水田魅力発信強化事業

- 情報発信スキルアップ研修 (R5年10月10日)
 - ・ 農業者や農業関係者を対象にした情報発信スキルアップ研修を実施
- 魚のゆりかご水田シンポジウム「人と魚のいのちの環」(R5年11月26日)
 - ・ 県内外の消費者等に広く案内。会場参加型のクイズとパネルディスカッションを実施
- 現地視察ツアー
 - ・ 湖東～東近江地域の魚のゆりかご水田を巡回 R5年6月22日
 - ・ 湖東～南部地域の魚のゆりかご水田を巡回 (きらみずきとコラボ)R5年10月1日
- 京阪神地域でのPR活動 (R6年2月に大阪府で予定)
 - ・ 大型ショッピングモールにおいての啓発推進活動 (ジオラマ展示)
 - 魚のゆりかご水田のおにぎり提供、サンプル米の配布とアンケート活動を実施予定



魚道設置の協働活動
(高島市マキノ町知内にて)



現地視察ツアー
(彦根市田附町にて)



情報発信スキルアップ研修
(J Aレーク滋賀中主営農センター会議室)

◆琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語創造プロジェクト

- 「魚のゆりかご水田」をはじめとして、生きものの暮らしに配慮した「豊かな生きものを育む水田」の取組を一層拡大することを目的に、生態系保全に関する技術や情報の共有、新たに取り組まれる地域への技術指導を実施
 - ・ 魚道資材提供.....野洲市野田地区、草津市志那地区・北山田地区、高島市マキノ町知内
 - ・ 農業者への技術支援 野洲市比留田
- 「豊かな生きものを育む水田」で生産される米の生産拡大、および販路拡大に向けた活動を実施
 - ・ 近鉄百貨店草津店 「近江路×MLGs2023」R5年6月28日～7月4日
 - ・ 近鉄百貨店草津店 近江路「世界農業遺産フェア」 R5年9月27日～10月10日
 - ・ 世界農業遺産1周年記念祭でのPR活動..... R5年10月21日
 - ・ よみうりマーケット滋賀デーでのPR活動.....R5年10月24日
 - ・ 獣医師会10周年記念「人・動物・環境の健康フェア」 R5年12月17日



世界農業遺産フェア
(近鉄百貨店草津店にて)



よみうりマーケット
(読売新聞大阪本社にて)



獣医師会10周年事業に出店
(大津プリンスホテルにて)

◆環境こだわり農業支援事業

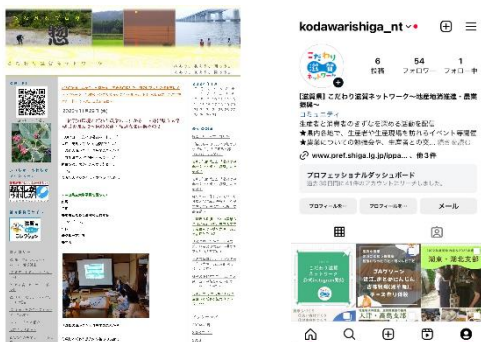
○こだわり滋賀ネットワーク

滋賀の「農」と「食」に関する外部団体「こだわり滋賀ネットワーク」の活動において、以下の活動を実施し、環境こだわり農産物に対する消費者の理解促進を図った。

- ・ 広報誌やSNS等を活用して環境こだわり農産物に関する情報を発信
- ・ 環境こだわり農産物を生産する現場を訪れ、環境こだわり農業の実態を学ぶ講座を開催 等



広報誌「こだわり。」vol.62 (R5年3月発行) 特集で「きらみずき」を紹介
 広報誌「こだわり。」vol.63 (R5年9月発行) 特集で「とよ坊かぼちゃん」を紹介



SNSでの情報発信の様子
 (左：公式ブログ、右：公式Instagram)



環境こだわり農産物「おとめにんじん」に関する講座を実施

◆学校給食オーガニック米活用モデルの検討

オーガニック米の学校給食への流通等における課題を整理、検討するため、学校給食におけるオーガニック米の炊飯試験を実施した。(22校、約8,000食)

◀炊飯試験内容▶

品種	きらみずき (滋賀県産)		
実施地域	彦根市 (自校炊飯)	17校	6,519食
	竜王町 (給食センター炊飯)	4校	1,190食
	県立三雲養護学校 (委託炊飯)	1校	346食

◆オーガニック近江米等産地育成事業【重点施策2(1)①に記載のため省略】